

「永遠の命を」

2014年10月08日

マルコによる福音書10章17節～22節。イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄り、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と言った。イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

主イエスのところに一人の人が走り寄り、ひざまずいて問うた。彼は息せき切って「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」と問うている。まず「善き先生」と言っている。彼は、主イエスが素晴らしい教えを語る人であると聞いていたに違いない。日頃、思い悩んでいた問いを、主イエスにぶつつけた。それは、永遠の命を受け継ぐためには何をすればよいかという問いであった。「永遠の命」とはいつまでも続く命とか、死んだ後、天国に行くということではない。生きている今、神と結び合い、充実した生き方をしている状況を指す。彼は生きている実感が持てず、日々の生活が空しいと思っていた。ここから抜け出し、意味の持てる生活をしたいと望んでいた。それが、永遠の命を受け継ぎたいという願いであった。彼はまじめな青年である。

主イエスは、勢い込んで問う彼に「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない」と頭から水をかけるような言葉で応じている。そして「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ」とモーセの十戒の人間に関する戒めを語っている。すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と答えた。主イエスは、彼が駆け込んで来た時から、彼の人生の問題を全て理解していた。金持ちで、宗教生活もまじめに守り、近所の人々からは「立派な青年」と言われていたが、彼の心の中の虚無性を見抜いていた。主イエスは、慈しみをもって見つめ「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」と勧めた。すると、彼は肩を落とし、悲しみながら立ち去って行った。持っている物を貧しい人々に施せという言葉に応じることができなかつたからである。

彼は「立派な青年」であったが、それは、生暖かい布団にもぐり込んだような生活であった。全財産を施せと言う主イエスの言葉を文字通りに受け取る必要はないであろう。彼には愛する隣人がいない。主イエスは、周りにいる苦しむ人々に目を向け、彼らと共に生きなさい。そうすれば、虚無から抜け出し、生きている実感を味わう「永遠の命」に生きることができると言われた。しかし、彼は再び、生暖かい布団にもぐり込んでしまった。喜びと悲しみを共感する隣人がいるところに、今を躍動する「神の命」が働く。